

令和元年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成31年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

**令和元年度 市岡東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3年	学校	78	69	56	54	3.0	7.0	5.9
	大阪市	—	70	57	54	3.5	8.8	6.7
4月18日	全国	—	72.8	59.8	56.0	2.6	7.3	6.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	73	53.5	49.8	49.5	60.1	45.8	7.2	3.7	12.7	1.4	4.7
	大阪市	—	56.6	45.9	52.5	47.4	46.2	6.0	6.0	13.2	5.9	5.4
6月19日	大阪府	—	57.1	46.2	53.5	47.7	47.0	6.2	6.2	13.2	6.2	5.2

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3年	学校	78	67.6	51.6	57.1	63.8	65.0
10月3日	大阪市	—	67.9	51.7	61.6	55.2	68.3

令和元年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、「話すこと・聞くこと」領域において、平均正答率が6.1%及ばなかった。他の領域はどれも3%程度及ばなかった。特に自分の考え方を書くことに課題があり、今後重点的に取り組んでいく。

＜数学＞ 全国と比較して、「資料の活用」領域において、平均正答率が7.9%及ばなかった。他の領域は0.9～2.8%及ばなかった。特に、確率を求めるに大きな課題があり、全国の正答率72.8%に対して本校では41.0%と31.8%も及んでいない。今後復習を取り入れながら重点的に取り組んでいく。

＜英語＞ 全国と比較して、「聞くこと」領域において、平均正答率が5.4%及ばなかった。他の領域はどれも2%程度及ばなかった。特に情報を正しく聞きとることに課題があり、今後重点的に取り組んでいく。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

平均正答率は大阪府と比較して、国語-3.6点、社会+3.6点、数学-4点、理科+12.4点、英語-1.2点であった。

＜課題＞

問題形式別では「記述式」においてほとんどの教科で大阪府の平均と同じか上回った。国語、英語で「読むこと」の領域に、数学で「関数」の領域に課題があった。

○大阪市中学校3年統一テスト

＜成果＞

平均正答率は大阪市と比較して、国語-0.3点、社会-0.1点、数学-4.5点、理科+8.6点、英語-3.3点であった。

＜課題＞

国語では「読むこと」の領域、社会では「歴史」の領域、数学では「関数」・「資料の活用」の領域や「記述式」問題、理科では「記述式」問題、英語では「読むこと」の領域に課題があった。

【今後に向けて】

・教員が個別に授業改善を行うのではなく、授業改善の取組をより効果的なものにするために、めざす授業の姿を共有するなど組織的に進める。

・生徒が主体的に取り組むように適切な課題設定をし、教科を超えて意見交換をし、効果があった指導方法を共有する。